



強みを知り、強みを生かす

W杯ラグビーが開幕しました。先日の日本代表の試合、見事でしたね。最初は緊張からミスが出ましたが、徐々に本来の力を発揮し、素晴らしい活躍を見せてくれました。

日本ラグビーは、長い間、世界の壁に阻まれてきました。第1回大会（1978年）から第7回大会（2011年）までのW杯の成績は1勝21敗2引分。しかし、前回大会（2015年）では、南アフリカを破る大金星。惜しくも1次予選で敗退したものの3勝を挙げました。

この躍進のきっかけを作ったのが、前回大会で日本代表ヘッドコーチを務めたエディー・ジョーンズ氏です。

エディー氏は様々な国の指導をし、成果を上げてきた世界の名将です。彼は、自分が生まれ育った国とは違う土地でコーチする場合、その国の選手たちが受けてきた教育や文化的な背景を入れてチーム作りをしますと言います。つまり、そのチームの「強みを知り、強みを伸ばす」ことを大切にするのです。

エディー氏が考えた日本人の強みとは何か？それは、どんな過酷な練習にも耐え、向上心を持ち続ける“勤勉さ”です。彼は日本人の勤勉性を生かして、早朝6時から練習を始め、選手を徹底的に追い込むことで、世界一タフなチームを築いてきました。

その練習について、彼は次のように語っています。

「日本人の強みは、真面目で忍耐力があることです。それは間違いなく世界一です。他の国の選手なら、とっくに逃げ出しているでしょう。」

日本人の強みを徹底的に観察し、それを伸ばすことで世界の強豪相手にも打ち勝つ集団へと進化させてきたのです。

しかし、その一方で日本人の弱点についても指摘しています。それは考えない習慣です。考えない習慣、頼り切ってしまう自主性のなさ、自分の長所を語れない自信のなさをあげています。日本代表の選手でさえ、面談で「自分の強みはなんですか？」と質問すると、まず、自分のマイナス面を答えるのだそうです。

彼は、ジュニア、高校のコーチに至るまで、様々なスポーツの試合を見学にして驚かされることとして、日本人の指導者がネガティブな言葉で子どもたちを叱責するのが多いことをあげています。ミスを指摘する、マイナス面を改善しようとする。そんな指導者のネガティブなマインドは選手たちにも伝染していくというのです。

エディー氏は、スポーツの世界について述べていますが、教師として保護者として、日々の指導を振り返り、反省すべき点が多くあるように感じます。

日本代表チームは、新たなヘッドコーチ、ジェイミー・ジョセフ氏のもと、更なる進化を遂げてきました。今後の戦いが楽しみです。しっかり応援していきましょう。